

開発 教育 ニューズレター



カルカッタの街角、万力で砂糖きびの汁を絞るジュース売り
写真：木下理仁（東京都）

No. 37

1992. 7

今年もやってきます

夏の全国研究集会

参加申込み受付中(7月末日まで)!

テーマは「開発における女性の役割～視点をずらして見えてくるもの」

とき 8月22日(土)～23日(日)
ところ 青年海外協力隊・広尾訓練所(東京都渋谷区広尾4-2-24 地下鉄広尾駅 歩3分)
主催 開発教育協議会

22日	「開発教育入門講座～開発教育に初めてふれる方のために」 基調講演「開発における女性の役割」西野桂子(FASID) 課題別研究会 「識字運動の展開」「開発における女性の役割」 「開発と援助」「開発問題の教材化」 懇親会(自由参加)	23日	研究・実践事例発表 全体会、まとめ
-----	--	-----	----------------------

研究・実践事例の発表者を募集しています

- 1) テーマは特に指定しません。開発教育、国際理解教育、異文化間理解教育、人権教育、平和教育など、途上国の開発問題に関連する研究・事例ならば歓迎します。
- 2) 発表時間は一事例について50分(質疑応答を含む)とします。
- 3) 発表希望者は、B4またはB5の用紙1枚に、氏名、テーマ、内容をまとめ、7月末日までに開発教育協議会事務局までお送りください。そのまま原稿として印刷し、当日、参加者に配布します。
- 4) スライド、OHP、ビデオ(VHS)が使用できます。必要な機材があれば、応募の際にあわせてお申し込みください。

ボランティアを募集しています

開発教育協議会は、ボランティアの人達に支えられています。研究集会の運営を手伝ってください。

関西に開発教育資料センター

開発教育協議会の団体会員である関西セミナーハウスは、今年四月に開発教育資料センターを開設した。センターは京都市左京区一乗寺竹の内町23の関西セミナーハウス内に設けられていて、会員制。ここ数年の間に収集した同ハウスの開発問題や開発教育関係資料を、会員に閲覧あるいは貸出して利用してもらおうという主旨。会員の会費は年3,000円(維持会員は一口5,000円)で、資料の貸出は郵便や電話でも受け付ける。利用可能な資料目録などはこの夏に作成して会員に配布する予定。問い合わせは上記関西セミナーハウス内開発教育資料センター(電話075-711-2115)。

持続可能な開発とは - リオ・サミット

五月から六月にかけて、マスコミはリオデジャネイロの地球サミット(国連環境開発会議)関連の取材でにぎやかだったが、その中でしばしば登場したのが「持続可能な開発」ということば。英語では sustainable development といい、魔法の力をもってでもいるように方々で使われた。

このことばを最初に使ったのは、ノルウェーの首相、ブルントランドが委員長を勤めた開発と環境に関する世界委員会が1987年に発表した報告書「地球の未来を守るために(原題は Our Common Future)」である。そこでは「これからの世代に累を及ぼすことなく現在の世代の必要を満たす」のが持続可能な開発であるとされた。さらに、現在の貧しい人々の必要に応えることが、これからの世代の必要に実質的に応えることにつながる、とされた。しかしこれは、具体的には難しい問題をはらんでいる。地球の環境汚染は一日をゆるがせにできないほど深刻であるし、一方では八億人からの絶対的貧窮という生活を強いられている人たちがいる。貧窮からの脱出は、なんらかの形の環境破壊につながる開発をとらざるを得ない。今度のリオデジャネイロでの会議の争点の一つは、貧しい発展途上国の開発権と環境保全をどう両立させるかということだった。持続可能な開発が本当に可能であればよいが。

ボスニア問題は宗教問題

このところのマスコミをにぎわせているもうひとつの世界の事件は、バルカン半島 - 旧ユーゴスラビア構成諸国間の戦争である。大セルビア拡張主義と批判されているセルビア・モンテネグロ連合である現ユーゴスラビア軍の侵略にあって、人口の40%がイスラム教徒(大部分がスンニ派という)であるボスニア・ヘルツェゴビナ共和国が、この三月来、国土の半ば以上を占領されている。

この事態に対してアジアのイスラム諸国が一斉に抗議の声をあげはじめた。六月にはイスラム諸国が集まって対策を協議するという。東西対立の冷戦構図が崩壊した現代世界に戦争の火種を持ち込んでいることだけでなく、この地域はもともとイスラムとキリスト教の戦いの長い歴史の土地であることからくる問題がある。

国連のユーゴ制裁決議やEC諸国の批判を受けて現ユーゴ指導部はユーゴ軍はボスニアから撤退したし、ボスニア居住のセルビア人が構成する民兵への支援も止めると声明したが、マレーシアの外相は、セルビアの民兵に対する軍事支援は同じペースで続けられていると非難した。そしてイラクのクエート侵略に対しては迅速に対抗措置をとった西側諸国が、なぜに現ユーゴスラビアに対して効果的な制裁措置を講じないのか、それはイスラム(ボスニア)対キリスト教(セルビア)という対立構図のせい、と疑念を表明している。

バルカン半島は東と西がぶつかりあうところである。なかでもボスニアはその最大の被害を受けている。七世紀にセルビア人がここを占領してローマ・カトリックの国とし、500年後にはハンガリーが侵略してギリシア正教会の国とした。14世紀後半にはイスラム教国であるトルコがセルビアを破って、今にいたるセルビア人のイスラムに対する怨念のもとをこしらえた。ボスニアはそれを機に独立をはかるが、セルビアと同じくトルコの支配するところになった。多くのボスニア人がイスラムに改宗したが、19世紀にはトルコに対する独立運動がおこり、ロシアとトルコの戦争では戦場となり、戦後にオーストリア軍が占領するに及んで、ボスニアは400年来のイスラム支配から脱した。そして第一次世界大戦は、このボスニアの学生がオーストリアの皇太子を暗殺したことがきっかけになったのは、よく知られているところである。

イスラム側の報道によると、ボスニアはイスラム原理主義を広げようとしているとセルビアから非難され、セルビア占領地のボスニアではイスラム教徒に対するいやがらせや宗教的迫害が生じているようである。国連ユーゴ防護軍として一万人のPKOが派遣されているが、見通しは明るくない。

それにしても民族の怨念は数百年たっても消えない。アジアの人たちの日本に対する危惧が残っているのは当たり前だろう。

(この欄は Asiaweek6月19日号を参考にしました)

世界青年の年十周年を前にして

参加、開発、平和をキーワードとして世界青年の年活動が1985年に展開されたことが、まだ記憶に新しい人も多いだろう。開発がなぜ青年の年の主題になるのか、開発過剰ともいえる日本の青年がなぜ開発を論議するのかという疑問をもち、それを討論する過程で世界の開発問題に目が向いた青年も多かった。その青年の年十周年を前に、21世紀に向けた青年の行動計画をつくろうという動きが国際連合と青少年団体の間で現実化してきている。

昨年国連が招集した民間青少年団体との協議の場で、青少年団体が世界青年の年の後の青少年施策を点検すること、国連に協力して世界青年行動計画案を策定すること、国連加盟各国は青年施策原則や青年についての宣言を策定することを検討すること、青年の年十周年(1995年)に世界青年サミットを開催すること、1995年から2005年までを国連は青年の十年(a decade for youth)と宣言することなどが提案されている。十年近く前の青年の年の主題であった参加・開発・平和は、今日の青年にとっても同じく必要かつ有効な課題であり、それを、人権を奪われ貧困に苦しむ草の根レベルの青年を対象に、具体的に行動計画として検討し実現に向けていくべきだとしている。日本ではこれに対応する動きはまだ表面化していないようである。

アジアの天候不順 - エルニーニョ

東マレーシア・サバ州の今年の冬は、たとえば首都のコタキナバルでは雨が例年の量の3%以下で、乾燥による自然発火がおこったり、イナゴが稲やココナッツを襲ったり、大変だったという。稲の収穫量は例年の三分の一とか。フィリピンでも干ばつが八か月続いている。ミンダナオやビサヤの降雨量は例年の半分。その干ばつが水力発電量に影響し、頻繁な停電をおこす原因の一つとなっている。

異常気象は各地でみられる。インドネシアでは昨年の干害に反して今年は雨がたっぷり降ったそうだし、ニュージーランドの今年の秋(日本では春)は五十年來の寒さだったという。寒い冬(日本では夏)と電力不足が懸念されている。そしてこれらの異常気候が太平洋ペルー沖のエルニーニョ現象のせいだという。それでインドやパキスタンの農民たちは、今年のモンスーンがどうなるかを心配しているそうだが、予測は二通りに分かれる。アメリカではエルニーニョ現象はもう終わったとみる気象学者が多いそうだが、メルボルンでは今年の年末まで続くだろうという観測がある。モンスーンが年間の降雨量の大部分をもたらすインド大陸では、今年の秋のエルニーニョ効果が生活を左右することになる。(Asiaweek 6月19日)

高等学校教育への開発教育の導入

生地 陽 (神奈川県)

高等学校社会科への開発教育の導入について、はじめに教育目標に関わる点、次に内容領域の課題、最後に方法について検討した。

2-1 教育目標

社会科の目標は学習指導要領によると「広い視野に立って、社会と人間についての理解と認識を深め、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民的資質を養う。」となっている。社会における公民的資質とは、国家・社会の成員として求められる知識・理解、能力、関心、態度のことであり、特に「国民権を担う公民の育成」にその目標がおかれている。

一方、開発教育の目標については、さまざまな意見があり、前述した国連合同情報委員会や開発教育協議会の定義の他に、例えば、国立教育研究所開発教育カリキュラム研究会では開発教育が意図するところとして「第一に発展途上国の総合的理解をはかること、特にそこに生きる人々の生活、文化、社会などの理解を深めること。第二に、低開発国の諸様相とその原因についての理解をはかること。第三に、さらに、これらの諸様相を克服し人類社会の均質な発展をめざす態度を養うこと。」をあげている。これらと1-2で述べた最近の思潮もふまえて、社会科の目標と対比しながら、開発教育の基本的な目標を4点考えた。第一は開発教育では「社会」の概念を国家をこえた地球全体(宇宙船地球号)とするが、このために、基本となるのは、①地球市民意識の育成である。すなわち、文化的背景を異にする人々への理解と同じ地球に居住する者としての共感をもつことである。第二に社会科における「広い視野」は開発教育においては②地球的な視野(Global Perspective)を持つことである。すなわち、社会の事象を地球を一つのシステムとして捉える思考の枠組みを持つようになることである。第三に「社会と人間についての理解」とは開発に関する多様な側面への理解に対応し、そこでは、まず、③学際的思考方法の習得が必要である。そして、第四に社会科の公民的資質の育成という言葉の持つ、積極的でダイナミックな性質は開発教育においても強調される(④問題解決へ向けての積極的な態度の育成)。

これらのうちでもっとも重要なものは①である。GLOBAL ISSUESの解決には世界の人々との共感ということが前提になる。しかし、地球市民としての共感を実感の伴ったものにするためには多くの努力を必要とする。文化的背景を異にする人々との接触が少なかった日本人は、異文化に対する偏見や蔑視への自覚が薄く、接触が増加する中で、差別的な態度が形成されたり、指摘をうけたりしている。この目標は今なお、国内の様々な差別問題を解決できない日本社会においては重要な課題となろう。差別や蔑視の形成を考えると地球市民意識の育成は発達段階の初期から始めなければならないが、高等学校の段階までに、実践がなされ

ない現状ならば高等学校における実践は責任が重くなる。なお、この、発達段階の特色として、感受性の高い青年期に出会った人との共感が人格形成に大きな影響を与えることが期待できる。

次にこれらの具体的な目標に立って、開発教育はこれまでの社会科にはなかった知識理解と思考を求める。4つの基本目標の下に具体的な5つの目標を考えた。

開発教育において、人類の発展、進歩に関して、⑤南の国々の低開発の問題は今後深刻さを増し、その解決は切実なものとなることを理解し、また、⑥南と北の国々は相互に依存しあっており、南の国々の低開発の原因はその国の国内問題ではなく国際経済秩序のあり方に求められるものであるとの認識が求められる。また、⑦限りある地球の資源と破壊の続く環境に対する配慮が必要となる。そして、⑧物質的な豊かさを過度に重視した発展の考え方について批判し、真の豊かさとは何かを考えてゆかねばならない。これら4点を合わせて「持続的な開発に関する知識と理解」としてまとめることもできる。

最後に倫理的な分野では「自己と社会」という関係あるいは、「社会と人間」という世界観が地球でともに生きる他者の存在をどう捉えるかがテーマとなろう。

2-2 教育内容における課題

2-2-1 開発教育導入にともなう新しい内容領域

社会科は、そもそも対象領域を幅広くもっており、新しい社会的な事象を柔軟に受容してきた。したがって、内容的には開発教育、環境教育、国際理解教育、異文化間教育が扱っている内容を吸収することに問題が少なくない。

開発教育が扱い、日本の社会科教育がこれまで重点的に扱ってこなかった内容は、南の国々に関する内容、文化に関する内容、そして環境に関する内容等である。これらの内容は、さまざまな立場から指摘がなされてきたので、近年、導入が進んでいる。現代社会における環境問題の扱いや文化の扱いもそのひとつである。しかし、これらの内容を開発教育の目標に照らして体系化することが課題として残されている。さらに、これらの内容について教材研究は最近活発化しているが、一層の蓄積が必要である。

一方、社会科教育は多くのトピックを抱えており、内容の肥大化が批判され、内容の精選が課題となっており、単純にこれらの内容の追加を主張することでは問題は解決しない。また、高等学校教育の性質上、生徒に教科や内容の選択権はほとんどないので、開発教育のみをことさら取り上げることは敬遠される。

2-2-2 内容としての GLOBAL ISSUES の扱い

内容の選択に次いで問題となるのは、新しい内容の扱い方である。

GLOBAL ISSUESに関わる教育実践の問題の一つは、GLOBAL ISSUESがその原因や解決方法が今も見いだせ得ないような問題であり、これをどう教えるかという問題である。定説の存在は教育内容の室の向上と科学性を維持するために必要ではある。しかし、GLOBAL ISSUESは定説の確立を待ち、手をこまねいているうちに危機的な状況へと進行して行く特徴を持っている。そこには教材をつくる発想の転換が必要である。GLOBAL ISSUESの扱いは、問題の実態を詳細に知るこ

と問題解決のプロセスと取り組みを知ることが大切となるが、新しい発想の教材開発は今後の課題である。

この他、開発教育の内容の検討の多くは教育方法との関係が深いので、次に述べる。

2-3 開発教育の方法と社会科

2-2-2では、内容領域について考えてきたが、次に開発教育で重視される教育方法に関して学際性が重視される点と経験的な学習が重視される点を検討する。

2-3-1 学際性の重視

GLOBAL ISSUESの解決にあたっては学際的な取り組みが必要である。問題が大きくなり、社会のシステムも複雑化している中で、細分化された科学の分野を横断したような取り組みが必要になってきたのである。今日は専門性と学際性の追求が両立しなければならない時代である。

そのなかで、GLOBAL ISSUESを扱う教育分野では学際的な教材開発が必要であり、学際的な探究をする能力を生徒に育てることが必要になる。もともと社会科は、学際性を目指してできた教科であった。しかし、現在の高等学校の社会科は事実上各学問領域に細分化された「科目」によって教育が実践され、新学習指導要領では地歴科と公民科に分割した。学問領域への細分化の背景には専門性の維持という課題があり、それは高校教員の質の向上にも関連がある。また、経験主義への批判から、知識理解面を重視する傾向がでてきたためでもある。

社会科は開発教育にとって本来、よい土壌を提供してきたはずであるが、開発教育で重視される学際性において、今日うまく運用されていない。

このことは高等学校社会科の教員養成段階から見られる傾向であるので、開発教育の普及のためには大学の教育研究科のような教育機関において学際性を考慮した「社会科」の教員の養成が望ましい。

2-3-2 経験重視の教育方法

知識のみの開発教育は1960年代の「あわれみ」と「チャリティ」の感情を助長させるものに逆行する。これについて、金谷は、FAOとユネスコによる開発教育の研究報告の内容を評して「第三世界の諸国といわゆる南北問題についての知識学習だけでは、開発教育として不十分であって、児童生徒をして、学校内外の不平等に気づかせ、態度を変えさせてゆくものにまで広がるものでなければならないとしているのである」と述べている。

そこで、開発教育などGLOBAL ISSUESを扱う教育分野では教育方法の改革が主張されることが多い。特に問題解決を指向するために、調査、体験、文化的背景の異なる人々との直接接触などに重点が置かれている。直接的な経験の他に模擬的な体験のためのさまざまな手法も開発されている。

このような態度の養成に経験的な学習が強調される考え方の起源は、GLOBAL ISSUESの解決の現場の方法を反映している。教育論ではなく、現実の問題解決の場から実効ある方法として提唱されているものではないだろうか。

直接接触や体験学習は高等学校教育の現場では除外

されてきた経緯があるので、導入に当たっては、社会科の今日までの議論を参考にし、初期社会科等に対して行なわれた経験主義への批判も生かして見る必要がある。体系的や知識理解面でのバランスを失わずに、小中学校より進んだ段階の実践を創造してゆくことが今後の課題であろう。

2-4 他の教科、教科外での導入

これまでみてきたように、開発教育の内容を社会科が吸収してゆくことは論理的には可能であるが、実践では困難である。そこには、他教科と連携することによって、克服できることも多い。地球市民としての意識をもつためには異文化への理解が必要であるが、音楽、美術、書道などの芸術科、家庭科、体育科において、豊かな可能性が広がっている。

また、社会の発展を考えると環境への配慮は不可分であるが、理科の環境教育の実践を社会科と連動させてゆくことと開発教育に深みがでよう。英語科はもともと国際化に興味ある教員が揃っている教科である。近年の教科書には環境問題、南北問題などGLOBAL ISSUESを扱ったものが増えているようである。

教科外では部活動、学校行事として取り組む学校が増えている。教科の中に導入することが敬遠されるとき、新しい教育内容は教科外で試行されるようである。しかし、これは単発的なものになりがちであり、体系化されたプログラムの中で位置づけることが望ましい。なお、筆者の勤務地である、神奈川県においては、神奈川県国際教育研究協議会において、学校では単独で開催できないような交流的な行事を県内の高校の教職員が企画しており注目される。

神奈川県で高校の社会科の先生をしていらしゃる生地 陽(おひ かり)さんのレポートです。全体は次のような構成になっていますが、今回はこのうち「2 高等学校社会科への開発教育の導入」の部分のみ掲載させていただきました。

- 1 開発教育の特徴
 - 1-1 開発教育の概念
 - 1-2 開発教育の思想的展開
- 2 高等学校社会科への開発教育の導入
 - 2-1 教育目標
 - 2-2 教育内容における課題
 - 2-3 開発教育の方法と社会科
 - 2-4 他の教科、教科外での導入
- 3 学校行事の実践例
 - 3-1 インドシナ青年との交流会の実践
 - 3-2 交流会の実施までの経緯
 - 3-3 NGOとの関係
 - 3-4 高等学校の多様性
- 4 開発教育導入の課題

『高校で考えた外国人の人権』

神奈川県立多摩高校日本語ボランティアサークル編 明石書店 700円

昨年12月に国連で採択された「すべての移住労働者とその家族の権利保護に関する国際条約」を、神奈川県の高中生グループが翻訳、出版しました。

この条約は、単なる「労働力」の移動としてのみ論じられがちな、国境を越えての「出稼ぎ」を、夫婦、家族の移動としてとらえ、彼らの権利保護の必要性を認めたものです。私たち日本人も、急増する「外国人労働者」と「隣人」として付き合う機会が多くなってきた今、考えさせられることが少なくありません。

翻訳グループの顧問である風巻 浩先生は、「この条約を学び、批准することは、単に外国人のためだけではない。それは、日本が開かれた、公正で、真の意味で豊かな人間性のある生き方ができる社会に変貌する契機となるに違いない。(中略)私は高校生たち、若い世代に期待をしていきたい。翻訳は拙いものであるし、日常活動はささやかなものである。しかし『はじめの一步』からしかすべては始まらないこともまた、事実なのだ」と語っています。

『アジアを食べる日本のネコ』

上智大学世界食料デーグループ・ベトフード班 梨の木舎 1000円

上智大学では、毎年10月の世界食料デーに、学生の研究発表会を行なっていますが、これは、昨年の発表グループの1つ、“ベトフード班”のレポート。インドネシアで獲れたマグロが、タイの缶詰め工場を経て、日本の猫の口に入るまでを、現地取材し、そこに存在する「南北問題」を明らかにしています。『バナナと日本人』、『エビと日本人』に続く、新たな問題提起。

『ぼくたちのエコロジー-就職宣言~環太郎の「会社のここが知りたい!」』

環境学生サークル・グループ環 ダイヤモンド社 1500円

これも大学生グループが調査、取材してまとめた本。「地球にやさしい」会社に就職するためのガイドブックです。

「商社」「自動車」「食品」「マスコミ」「金融」などの業種別に具体的な企業の名前をあげて、それぞれの地球環境問題への取り組みを紹介しています。各企業の環境対策担当の連絡先一覧は、個人で情報を集める場合にも役立ちます。また「もうひとつの就職情報」では、NGOも紹介されています。たとえば「サヘル会」の初任給は18万円、採用は不定期、だとか。

『たみちゃんと外国人労働者』

財団法人 神奈川県国際交流協会 無料(返信用封筒を添えて申し込む)

神奈川県国際交流協会の「たみちゃんシリーズ」の第8作。小学校高学年から中学、高校生までを対象としており、授業で利用している先生も多いようです。問合せは、同協会(☎045-671-7070)まで。部数に限りがありますので、遅くなると入手できません。



21世紀を共に生きる地球の仲間 たみちゃんと外国人労働者



先日、總會の出欠連絡のハガキで、たくさんの会員の方から協議会に対するご意見をいただきました。その一部をご紹介します。

- 九州地区での大会を希望します。
- 地方にいる者も、もっと活動に参加できるように考慮してほしい。
- 気軽に参加できるワークショップ(開発教育を広めるために初心者向け)があれば望んでいます。
- 学校教育のカリキュラム研究に役立つ研究資料の収集を期待。
- 注目される開発教育関連図書を紹介の度にやってほしい。
- 事務局の労力を度外視して、率直にいわせていただくと、ニュースの情報量が非常に少ない。会員になっても、会の動き、会員の動きがまったく見えてきません。ニュースの量をまずは増やしてほしいです。
- 昨年、埼玉から福島に引っ越してきました。総会、ぜひ出席したかったのですが、もう少し近ければ、開発教育に関する情報の南北格差。誌上での再録をお願いします。
- 開発教育の理論を解説し、普及させる必要があると思います。もし出版されるときには、執筆メンバーに加えてください。
- 普及版の「開発教育ガイド」が発売され、広く読まれるようになれば、と思います。
- 小中学校の授業のなかで、どう取り組んだらよいか、実践例を紹介してください。
- 関西方面で開かれるセミナーなどの予定を教えてください。
- 私は、現在、NHKで番組を作る仕事をしている者です。「開発教育」という言葉は、まだ一般に知られていませんが、これから「開発教育」抜きには、日本と第三世界の話を語れないと考えています。もしも、東北地方で開発教育に力を入れていらっしゃる先生がいらしたら、ぜひご紹介いただければと願っています。

事務局からのお知らせとお願いです。

原稿を募集しています! このニュースレターで、会員の皆さんの声を紹介したいと思います。開発教育の実践事例、協議会へのご意見、ニュースレターについてのご感想など、何でも大歓迎です。どしどしお寄せください。ただし、協議会事務局の苦しい財政では、残念ながら原稿料はお支払いできません。あらかじめご了承ください。

写真を送ってください このニュースレターの表紙の写真を、会員の皆さんから募集します。「開発教育」のイメージ写真としてふさわしいワン・ショットをお待ちしています。こちらで適当に拡大コピーしますので、普通サイズのプリントでかまいません。簡単な説明、メッセージを添えてお送りください。なお、写真はお返ししますが、やはりお礼はできません。あしからず。

Members

- 新入会員** 児玉寛子(神奈川) 沼沢洋子(宮城) 川上千春(福井) 中井 聡(東京) リブリオ出版(東京) 青木麻美(埼玉) 原 庸子(神奈川) 秋田貴美子(愛知) 木村ひとみ(愛媛) 忽那君枝(神奈川) 永瀬一哉(東京) 川島羊子(東京) 泉 康夫(神奈川) 白鳥清志(千葉) 藤本ゆかり(東京) 服部朋子(埼玉) 寺村 陸(U.S.A) 林 寿夫(広島) 中井範子(神奈川) 有村浩一(東京) 大出珠江(東京) 猿山真奈美(栃木) 山田浩士(東京) 石田伸子(東京)
- 継続会員** 北田 博(大阪) 野元弘幸(愛知) 原子栄一郎(静岡) 在田昌弘(埼玉) 新日本宗教青年会連盟(東京) 米良重徳(岡山) 今林弓子(埼玉) 吉原喜代(千葉) 結核予防会結核研究所(東京) 甲斐田万智子(長崎) 吉田 正(大阪) 中村早苗(宮城) 赤井充也(神奈川) 栗野真造(大阪) 松下俱子(東京) 松井やより(東京) 谷沢一江(東京) 小沢晴司(福島) 和賀井 稔(神奈川) 皆又雅章(埼玉) 日本フォスター・プラン協会(東京) 広畑周子(岡山) 古谷田紀夫(神奈川) 川上多美子(高知) 今西貴子(千葉) 房野 桂(神奈川) 武元茂人(三重) 細田貴子(茨城) 寺尾明人(東京) 西岡咲智子(大阪) 勸ユニセフ協会(東京) 富永幸子(埼玉) 富岡紀子(茨城) 国際協力推進協会(東京) 宇野公容(東京) 栗野 鳳(東京) 寺田 正(熊本) 長谷川 勉(愛知) 栗田公子(神奈川) 磯崎泰博(兵庫) 桑原直子(静岡) 武元茂人(三重) 藤井 誠(愛媛) 中村恭子(東京)

ボランティア募集中! 夏の全国研究会の裏方を手伝ってくださるボランティアを募集しています。「ひと肌ぬいでやろうか」という方がいらしたら、月・水・金のいずれかの日に事務局までお電話ください。

ゆずってください 使わなくなった古いパソコン、ワープロ、書棚など、捨てる前に事務局にご連絡ください。開発教育はまず行動から。地球資源の有効利用に取り組みましょう。

“麦の芽の会”に参加してみませんか♡ 開発教育協議会の運営委員が中心となって、“麦の芽の会”という自主学習グループを始めました。毎月1回、ゲスト・スピーカーを迎えて小さな学習会を開いています。7月のテーマは「WID = Women in Development」です。開発のなかにおける女性の役割を考えながら、途上国と日本の女性のより良い関係をともに創りだしていきたいと思います。老若男女の参加大歓迎! 主役はもちろんあなた自身です。

とき 7月12日(日) 13:00~17:00
ところ 赤城社会教育会館・視聴覚室(地下鉄新菜坂駅 徒歩5分)
問合せ ☎03-3207-8085(開発教育協議会)

Bulletin Board

第18回 国際理解教育奨励賞論文募集(国際理解教育研究所)

国際理解教育研究所では、国際理解と国際協力を積極的にすすめる平和な世界を築いていくことのできる日本人、とりわけ若い世代を育てる教育はいかにあるべきか、あるいはこうした趣旨にもとづいて実施された実践等についての論文を募集しています。

応募資格: 学校教育および社会教育のすべての領域において国際理解の研究、実践にたずさわる個人またはグループ。
選考方法: 400字詰原稿用紙5枚以内に研究または実践の概要を書いたものにより、第1次選考(今年8月末締切り)。1次合格者は、来年1月末日までに400字詰原稿用紙40枚程度の論文を提出する。最終選考は、来年3月下旬に行なわれる。
賞: 最優秀賞(1点、賞状および副賞30万円)、帝塚山学院賞(1点、最優秀賞受賞論文に対し賞状および副賞20万円)、優秀賞(1点、賞状および副賞10万円)、佳作(数点)

関心のある方は下記に応募用紙を請求してください。

〒589 大阪狭山市今熊2丁目 帝塚山学院大学内
国際理解教育研究所 ☎0723-65-0865

CALENDAR

7/ 3 10 17	アジアのポップスと民俗音楽(3回シリーズ) 「アジア諸国のポップスの現状」「ポップスと伝統音楽のはざま」「ポップスに何ができるか」 18:00~20:00 有隣堂会議室(横浜・伊勢崎町) ☎045-261-1337 ¥10,000(3回分)
7/ 7	AHI講演会「沖縄と日本とアジア」 平良 修 18:00~20:00 ☎05617-3-1950(アジア保健研修財団 愛知県愛知郡日進町)
7/10	上映会『教えられなかった戦争-侵略・マレー半島』 18:45~ 港北公会堂ホール(横浜市港北区) 講演:高岩 仁 ☎045-544-5663(津村)
7/11	「世界の先住民の今~93国際先住民年へ向けて」 上村英明(市民外交センター) 18:00~20:30 神田パンセ(東京・水道橋) ☎03-3770-6709(サラワク・キャンペーン委員会) ¥1,000
7/11~12	「箱根会議」国際交流担い手ネットワーク 箱根高原ホテル ☎03-3746-4661
7/11~15	ソフトエネルギー勉強会(ミニ弁論大会) 13:00~ サンライフ弘前(青森県弘前市) ☎0172-34-8101(水星舎) ¥700
7/12	麦の芽の会(DEWA=Development Education With Action) 「WID」 13:00~17:00 赤城社会教育会館(東京・地下鉄神楽坂駅 歩5分) ☎03-3207-8085(開発教育協議会)
7/15	KIS-わいわいトークン『地球どんぶり』『アマゾン語ろう~“開発”って何だ?』 伊藤 修(彫刻家) 18:30~20:30 神奈川県国際交流センター(横浜市中区) ☎045-671-7070(神奈川県国際交流協会)
7/18	ランゲージ・マラソン「アルゼンチン」 18:30~20:30 YMCA・ACT(横浜駅西口) ☎045-316-1881 ☞すべて英語で行なわれます。
7/30	「メコン川の向こう岸からみえた私たちの暮らし」 星野昌子(JVC) 10:00~ 岩間市民プラザ(横浜市保土ヶ谷区) ☎045-337-0012(保土ヶ谷区国際交流の会・加藤)
7/30 ~8/ 8	南アの子供たちの絵画展 横浜市教育文化センター(JR関内駅 歩3分) ☎0463-33-9270(大友) ☞主催の「南ア黒人の教育を支える会」は、南アフリカの子供たちに対する学費支援などを行なっています。
7/31 ~8/ 2	ジャブラニール夏の集い 長野県美麻村「遊学舎」 ☎03-3202-7863(ジャブラニール) ☞ジャブラニールの活動と私たちにできることを考え、語りあう3日間。ジャブラニール事務局に募集要項を請求して下さい。
8/ 1	講演会「南ア・レポート」 大友深雪(南ア黒人の教育を支える会)/津山直子(JVC) 14:00~16:00 横浜市教育文化センター(JR関内駅 歩3分) ☎045-671-3721
8/ 3~ 5	鳥取県高等学校国際理解夏期セミナー ☎0858-28-1811(倉吉西高等学校)
8/ 4	映画『夢のバスに乗って』上映会 14:30~, 18:30~ ¥1,000 スペース・オルタ(新横浜駅 歩5分) ☎045-472-6349 ☞ペルーのストリート・チルドレンの姿を描いた映画
8/20~24	第4回国際アニメーション・フェスティバル広島大会 アステールプラザ ☎082-245-0245
8/21~23	第13回全国在日朝鮮人教育研究集会(献金)「在日朝鮮人の子供たちが朝鮮人として生きていける学校・社会を実現しよう」 21日 フィールドワーク / 22日 全体集会 / 23日 分科会・閉会集会 全体会:日本教育会館(千代田区一ツ橋) / 分科会:東京大学駒場校舎 ¥3,500(フィールドワークの費用等は別)
8/22~23	開発教育協議会・全国研究集会 「開発と女性」 ☎03-3207-8085(開発教育協議会) 青年海外協力隊広尾訓練所(渋谷区広尾) ☞お申し込みはお早目に!
8/26~27	地球百姓ネットワーク交流会 島根県簸川郡斐川町「湖荘荘」 ☎0854-45-4082(石飛裕見子) ¥10,000
9/13	「日本人はアジアの仲間になれるか」 泉田スジダ(アジアの問題を考える会) 13:00~16:30 大宮市民会館 ☎048-622-8612(国際ボランティアの会)
9/23	AHI・スピーチフェスティバル「私と町と地球市民」 ☎05617-3-1950(アジア保健研修財団 愛知県愛知郡日進町)
9/26~27	日本ユネスコ運動全国大会 丸亀市民会館(香川県) ☎0877-22-7330(ユネスコ全国大会事務局)

※ 読者の皆さんからの情報をお待ちしています。締切りは偶数月の15日。協議会事務局(ニュースレター係)宛にお送りください。

開発
教育
ニュースレター

隔月刊

1992年7月1日発行
第37号

発行: 開発教育協議会事務局
編集人: 木下理仁(運営会議)
〒169 東京都新宿区西早稲田
2-3-18-61
TEL: 03(3207)8085
FAX: 03(3207)0226
お願い
ファックスには必ず「開発教育協
議会」と宛名を明記してください。

編集室から……
■ 今回からニュースレターの体裁が変わりました。広くなった紙面を生かすことができると思っています。
■ 皆さんからのお便りをお待ちしております。とくに、開発教育の実践例があれば、ぜひお送りください。
■ イベント情報はできるだけ幅広く載せたいと思っておりますが、事務局が東京にあるため、集まる情報はどうしても首都圏のものに片寄りがちです。北海道、東北から関西、九州、沖縄まで耳寄りな情報があれば、ぜひお知らせください。
■ あれも載せたい、これも載せたいと夢はふくらむのですが、とりあえず目の前にあるものから詰め込んでいったら、いつのまにか一杯になってしまいました。素人のかなしさで、なかなか思うようにいきませんが、少しずつでも良くしていこうと思っております。ご協力をお願いいたします。
(木下理仁)